「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座　第２回」

中南地区：令和５年７月１１日（火）弘前市総合学習センター　受講者１３名
下北地区：令和５年７月２５日（火）下北文化会館　受講者１０名

１　趣　旨

地域における家庭教育支援体制を整備するため、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人材を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する。

２　内　容

【講義】「子どもをもつ親の気持ち」
講師　スクールカウンセラー
岩田　彩子（いわた　さいこ）氏
【演習】「あおもり親楽プログラムⅠ」
進行　県総合社会教育センター職員

３　講義要旨

・スクールカウンセラーの仕事
〇児童生徒のカウンセリングに関すること
〇カウンセリング等に関する教職員及び保護者に対する助言・援助に関すること
〇児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供に関すること
〇その他、児童生徒のカウンセリング等に関し適当と認められるもの　の４つである。
・親の来談経緯は、自主的の場合もあれば、周囲に勧められたり、子どもの代わりに来たり等様々である。その気持ちをくみながらきくこと。子どもに関する相談話の中に、親自身の話題もちりばめられている。
・第三者が「きく」ということ
〇「きく」は、とても日常的なありふれた行動。
〇第三者の耳の存在は、身近な人との会話よりも新鮮さがあり、自分の気持ちや考えを客観的に捉えるきっかけになる。
〇話題を違った角度から、とらえることができる。
〇その話題について、相談者自身が対応できるようにする、もしくは相談者が抱えられるサイズになるように、「きく」ことでつながり続けること。

４　アンケートから

・カウンセラーとしての「きく」ということについて、大切にされているポイントを伺い、原因探しや支援者の体験・経験・情報が相談者にとってマイナスに作用することや時間・場所の枠組みの設定が大切なことを学びました。また、カウンセリングを行う立場の人も、相談できるリソースをもつことや相談者の面談の中でもプラスの部分に視点を向けることも大事であることも学びました。
・親御さんたちが、どんな気持ちで相談に来るのか、何を求めているのか、今後の支援の参考にしたいと思います。
・スクールカウンセラーの見えない部分の取組、立ち位置が分かりました。「フラットでライトな関わり」、「枠組み」、「シンプルにきく」という言葉が印象に残りました。
・演習で、親楽プログラムを体験することができました。実際に４名の参加者の方とお話して、内容の深まりや気付きがとても多く素晴らしいプログラムと感じました。全体の基本的な進行を知ることもできて、勉強になりました。

第２回は、子育てを頑張る親御さんの気持ちを理解するための学び、また、「あおもり親楽プログラム」の活用について演習を行いました。受講者にとって、支援者として必要な「きく」ことの大切さを学ぶとともに、「あおもり親楽プログラム」の進行の仕方を学ぶ回になりました。